

令和2年度 泉佐野市の財政状況

問合せ 行財政管理課

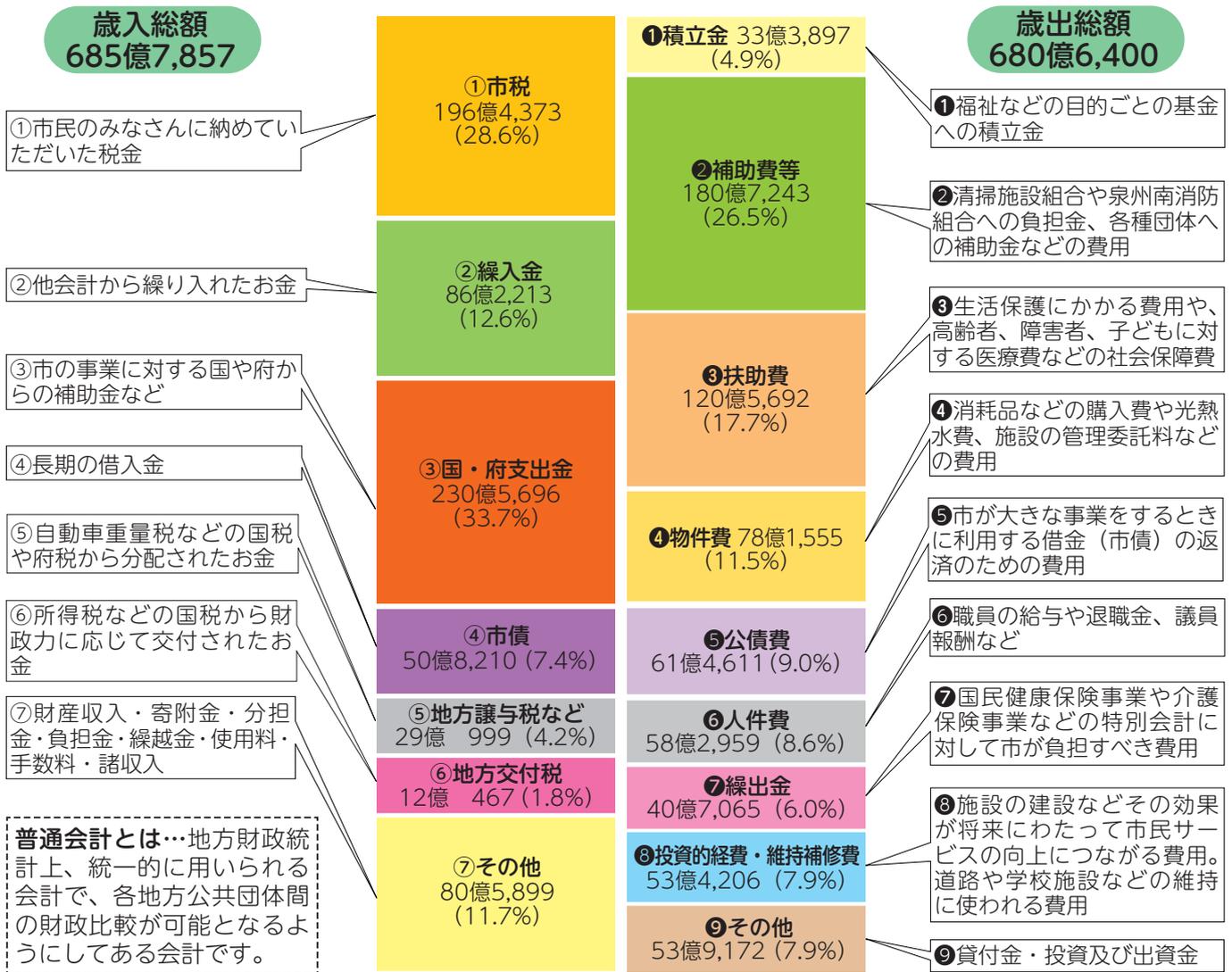


決算の特徴としては、令和元年12月に策定した中期財政運営方針に基づく事務事業の継続した見直しなどによる歳出削減のほか、遊休土地の積極的な売却、ふるさと応援寄附の推進などの歳入確保に努めたことで、前年度に引き続き約1億3,600万円の黒字となりました。

歳入総額	歳出総額	翌年度繰越財源	実質収支額
685億7,857万円	680億6,400万円	3億7,886万円	= 1億3,571万円

令和2年度 普通会計の決算

(単位:万円)



市民1人あたりでは…

歳入 690,509円	固定資産税 98,726円	歳出 685,328円	●総務費 212,970円	●消防費 14,260円
●市税 197,790円	●市民税 65,973円	●民生費 184,059円	●消火費 9,550円	●商工費 9,550円
●国庫支出金、府支出金 232,158円	●都市計画税 14,815円	●衛生費 77,964円	●議会費 2,898円	●その他(労働費など) 5,981円
●市債 51,171円	●市たばこ税 13,360円	●公債費 61,890円	●土木費 54,010円	
●その他(繰入金など) 209,390円	●軽自動車税 2,653円	●教育費 61,746円		
	●入湯税 72円			
	●法定外普通税 2,191円			

安全・安心なまちづくり

- 避難所となる小・中学校屋内運動場への空調機器整備の2年目（3カ年計画）を実施
- 生活困窮者等支援のために5中学校毎に地域型包括支援センターを設置
- 新型コロナウイルス感染症の影響による特別定額給付金をはじめとした各種支援

小学校空調整備事業



中学校空調整備事業



まちの活性化・賑わいの創出

- 熊取駅西地区の本市域内を市街化区域として整備を推進
- 泉佐野土丸線の整備
- 末広公園の整備
- 観光推進のための関空立国 destinations ション化推進事業の実施
- 中心市街地の活性化を目的としたエリアマネジメント活動推進事業の実施



熊取町西地区
都市計画道路

令和2年度に実施した主要事業

教育・子育て支援

- 上之郷小学校、第三小学校、日新小学校、末広小学校、第三中学校にプールを設置
- 佐野中学校グラウンドの夜間照明を整備
- 13小学校区の通学路に防犯カメラを設置

上之郷小学校プール



末広小学校プール



日新小学校プール



佐野中学校
グラウンド夜間照明

各会計決算（歳出）

（単位：万円）

会計名	令和2年度	令和元年度	比較
一般会計	673億6,180	930億1,813	△256億5,633
国民健康保険事業特別会計	104億4,334	109億5,974	△5億1,640
下水道事業特別会計	0	52億5,565	△52億5,565
公共用地先行取得事業特別会計	11億1,906	3億4,288	7億7,618
介護保険事業特別会計	88億6,974	87億1,888	1億5,086
後期高齢者医療事業特別会計	13億 102	12億 108	9,994
病院事業債管理特別会計	33億6,557	19億1,564	14億4,993
りんくう公園事業特別会計	1億9,575	8億5,122	△6億5,547
水道事業会計	24億7,087	25億 493	△3,406
下水道事業会計（*）	37億5,735	0	37億5,735
合計	988億8,450	1,247億6,815	△258億8,365

（*）…令和2年度から下水道事業特別会計は下水道事業会計になっています。



令和2年度末残高

●市債（長期借入金）

…626億円

市民1人あたり 629,861円

●積立金…132億円

市民1人あたり 132,850円

健全化判断比率の状況

実質赤字比率と連結実質赤字比率は、黒字により数値はバー表記、実質公債費比率は、12.0%と前年度から1.5ポイントの改善、将来負担比率は83.0%と前年度より3.7ポイント増加しましたが、いずれも早期健全化の基準未満となっています。

※実質赤字比率と連結実質赤字比率は黒字のため「-」で表示

(単位：%)

健全化判断比率	令和元年度 実績値	令和2年度 実績値	早期健全化 基準
実質赤字比率	-	-	12.19
連結実質赤字比率	-	-	17.19
実質公債費比率	13.5	12.0	25.0
将来負担比率	79.3	83.0	350.0

今後の取組項目

【支出の抑制、効率的な行政運営に関する事項】

- 事務事業の継続した見直し
- 広域連携の推進
- 窓口業務委託をはじめ民間委託の拡充
- 給与水準の適正化などによる総人件費の抑制

【収入の確保に関する事項】

- 滞納処分の強化および徴収率の向上
- 企業誘致等による税収増加
- ふるさと応援寄附金制度、ネーミングライツなどの更なる税外収入の確保

- ① 実質赤字比率…標準財政規模(*)に対する、一般会計等に生じている赤字の大きさの割合
- ② 連結実質赤字比率…標準財政規模に対する、水道や下水道など公営企業を含む全会計に生じている赤字の大きさの割合
- ③ 実質公債費比率…標準財政規模を基本とする額に対する、借入金返済額の大きさの割合
- ④ 将来負担比率…標準財政規模を基本とする額に対する、借入金など現在抱えている負債の大きさの割合

(*) 標準財政規模…市の経常的な一般財源の規模を示すもので、標準的な税収入額に普通交付税などを加算した額(令和2年度決算：約236億円)

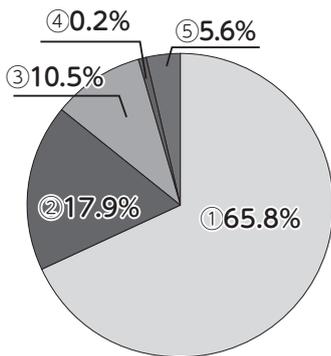
中期財政運営方針期間終了時の目標

- 実質公債費比率は10.0%以下
- 将来負担率は130%以下
- 地方債残高は標準財政規模の2.5倍以下

国民健康保険事業特別会計

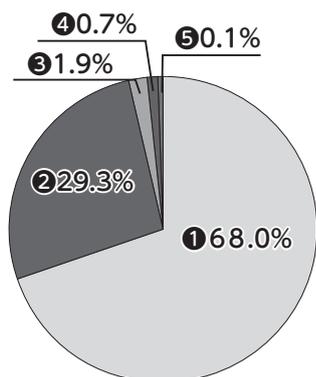
問合せ先 国保年金課

国民健康保険事業特別会計は、歳入111億2,142万円に対して、歳出104億4,334万円で6億7,808万円の黒字となりました。なお、単年度では8,753万円の黒字となっています。



歳入 111億2,142万円

科目	金額(万円)
① 府支出金	73億1,181
② 保険料	19億9,525
③ 繰入金	11億6,578
④ 国庫支出金	2,494
⑤ その他	6億2,364



歳出 104億4,334万円

科目	金額(万円)
① 保険給付費	70億9,911
② 国民健康保険事業費納付金	30億6,053
⑤ 総務費	2億 73
④ 保健事業費	7,364
⑤ その他	933

【府内平均を大幅に上回る医療費】

令和元年度の本市における全被保険者1人あたりの医療費は42万4,928円と府内43市町村中8番目に多く、府内平均の39万3,155円を大きく上回っています。

これは、他の市町村に比べレセプト1件あたりの診療日数および診療費が多くなっていることが影響しています。以前から、ジェネリック医薬品の利用促進や柔道整復の適正受診の啓発など医療費適正化の取組を進めていますが、1人あたり医療費は増加し続けており、府内でも引き続き高いレベルにあります。

【病気は未然に防ぎましょう】

本市では市民の健康づくりを推進するため、生活習慣病予防に着目した特定健診・特定保健指導の推進を図っています。

これは内臓脂肪型肥満や糖尿病、高血圧、高脂血症などの危険因子が重なるほど、心疾患や脳血管疾患を発症する危険が増大することから、生活習慣病予防に取り組むこととなったものです。その他、被保険者のみなさんには、人間ドック・脳ドックや泉佐野市役所健診センターで実施している各種検診を利用して、病気の予防、早期発見、早期治療に努めていただき、さらなる健康寿命の延伸や医療費の適正化にご協力をお願いします。

上下水道局会計決算

水道事業会計は、事業収益25億3,679万円（前年度比12.4%減）に対し、事業費用24億7,087万円（前年度比1.4%減）で、6,592万円の純利益が生まれました。

【令和2年度主な事業】

熊取駅西地区の開発に伴い、配水管を布設しました。また、久ノ木西出線および中村野口線などの老朽管の更新工事を行い、安全で良質な水道水の安定供給を図るとともに、ライフライン機能の強化に努めました。

令和2年度決算内訳 (単位:万円)

収 益		費 用	
営業	22億2,711	営業	23億5,709
営業外	3億 658	営業外	1億1,155
特別利益	310	特別損失	223
—	—	純利益	6,592
合計	25億3,679	合計	25億3,679

水を大切に

- 導・送・配水管総延長 465.01km (令和3年3月31日現在)
- 総配水量 (年間) 1,315.9万³m
- 企業団水1,127.2万³m+自己水188.7万³m
- 1日平均配水量 3万6,053³m
- 1人あたり1日平均配水量 363ℓ
- 給水装置工事や漏水修理の申込は市指定工事業者へ (<https://www.water.izumisano.osaka.jp/>)

水道事業会計

問合せ先 経営総務課 (水道事業)
☎467-2800
Fax467-1801

水道事業からのお知らせ

市では、昭和44年4月1日から、鉛管の使用を禁止してきましたが、それ以前に給水装置を設置した建物では、鉛管を使用していることがあります。この場合、長時間水道を使用しないと、水道管から微量の鉛が溶け出したり、消毒用塩素濃度の低下や赤水が発生する場合があります。朝一番や長時間留守にした場合は、バケツ1杯程度の水道水を飲み水以外に使用するようにお願いします。

下水道事業会計

問合せ先 経営総務課 (下水道事業)
☎450-2222
Fax450-2223

下水道事業会計は、経営基盤の強化や経営の計画性・透明性の向上を図ることを目的に、令和2年4月に地方公営企業法の全部を適用し、「公営企業会計」に移行しました。

下水道事業会計は、事業収益42億9,022万円に対し、事業費用37億5,735万円で、5億3,287万円の純利益が生まれました。

【令和2年度主な事業】

管渠整備事業として、市内12工区で下水道管渠布設工事を実施し、汚水整備を推進するとともに、雨水ポンプ場の機能保全を図るため、中央ポンプ場において耐震化にも考慮した年次的な長寿化対策工事を実施しました。

令和2年度決算内訳 (単位:万円)

収 益		費 用	
営業	25億5,227	営業	32億4,419
営業外	16億9,411	営業外	4億5,159
特別利益	4,384	特別損失	6,157
—	—	純利益	5億3,287
合計	42億9,022	合計	42億9,022

業務量

- 下水道普及率 41.5% (令和3年3月31日現在)
- 水洗化率 91.0% (令和3年3月31日現在)
- 有収水量 (年間) 7,465,794³m
- 下水道管布設総延長 276,826m (令和3年3月31日現在)

下水道事業からのお知らせ

快適で衛生的な生活環境を守るため、汚水の整備を進め、普及率の向上に努めています。下水道は、私たちの暮らしから排出される汚水をきれいに処理して川や海に戻すことで美しい自然を守っています。しかし、その効果を発揮するためには、私たち一人ひとりの理解や協力が欠かせません。下水道が整備され、使用できるようになった区域にお住いの人は、下水道への早期接続をお願いします。